



石岡市議会議員

櫻井 茂

活動報告

令和2年(2020年)

6月1日発行 第20号

■発行/櫻井しげる後援会 ■住所/315-0013 茨城県石岡市府中3-11-28
■電話/自宅 0299-22-3881 ■FAX/0299-22-3881 ■携帯 080-3150-8451
■WEB <http://www.sakurai.click/> ■E-Mail sakurai@sakurai.click
■Facebook <https://www.facebook.com/shige.sakurai.3>



討議資料

令和2年度がスタートしました。第1回定例会最終日に地域医療再編関係予算案を事実上否定する減額修正案が可決されたことで、体調不良を理由に今泉市長が突然の引責辞任を発表しました。これを受けて4月26日に市長選挙が行われ、元茨城県議会議員の谷島洋司氏が大差で新市長に当選。

新型コロナウイルスへの対応で多くの方々が我慢の日々を送る中、地域医療問題に加え市民会館の建設場所等々、行政課題は山積しています。谷島市長には新たな視点による行政運営を進める中で、賛成と反対の意見を十分に聞いた上で、課題解決に向けた取り組みを進めていただけることを期待します。

一、今泉市長が突然の辞任表明

(1) 地域医療計画案を議会が否定

(1) 予算特別委員会及び本会議で予算修正案可決
石岡市・小美玉市・かすみがうら市の3市長と石岡市医師会会長で構成する「石岡地方医療カンファレンス」が認定した石岡地域医療計画案に基づく基本計画策定委託料が令和2年度予算に計上されましたが、これを議会が予算特別委員会で減額修正し、本会議においても減額修正案に賛成する議員16名×反対議員5名となり地域医療計画を事実上否定しました。

議会への説明不足。交付税は満額交付されない。公立病院は赤字。地域医療振興協会は信用できるのか等、理由は様々でした。

(2) 政治責任を取って市長を辞職

今泉市長はパーキンソン病を治療しながら市長職を務めていました。そうした中、医師不足によって医師会病院の運営が厳しい状況であるため、その役割と機能を存続させ、石岡市の医療水準を維持することを最優先課題に取り組んできました。市議選後すぐに議員を集め、石岡地域の医療環境の現状を訴え、議員に協力を求めています。

そして、医師会副会長、石岡地域の中核病院長や行政関係者等による医療問題に明るい方々による協議検討の末に策定した「石岡地域医療計画案」を策定。この計画案を進める予算を新年度予算案に盛り込んだところ、議会がこれを認めず、持病の悪化による体調不良と併せて、政治責任を取るとして、議長に辞職届を提出したものです。

(3) 市長辞職により、関心は市長選挙へ

3月18日、定例会最終日、議案審査を終えて本会議終了直前、市長が議長に発言を求め、辞職を表明。これにより、市長の任期は4月7日までと決定し、議員の関心は市長選挙に移りました。

一、一部事務組合関係報告

(1) 石岡地方斎場待合棟増築工事の入札延期

石岡地方斎場組合(石岡市・小美玉市・かすみがうら市で構成)は、火葬の際に遺族が待機する待合室(現在4室)の2室増築と食品保管庫を整備する斎場待合棟増築工事を一般競争で入札すると4月7日に発表しました。しかし、予算額1億9千9百万余の工事費に対して入札参加条件が厳しく、応札が可能な業者は石岡周辺では1社に絞られる事が判明。「入札における公平性・公正性に疑問がある」として一部の議員が声を上げました。開札予定日は5月1日。新市長就任を待ち問題点を指摘したところ「入札手続等に疑義が生じたため」として、4月30日に入札延期となりました。今泉市長(組合管理者) 辞職の混乱と新年度開始早々の中、何故1社のみを応札可能とする不公平な入札条件工事を職員が起案し、決裁されたのか、説明が待たれます。

(2) 霞台厚生施設組合新広域ゴミ処理施設整備

霞台厚生施設組合(石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城県で構成)が進める新広域ゴミ処理施設整備は令和3年3月末竣工を目指して工事が進んでいます。

既に大型機器等は建屋内に搬入され、焼却施設の試運転は12月初旬開始を予定しています。

新施設へのゴミ搬入が円滑になるよう、施設周辺のアクセス道路の整備も急ピッチで進んでいます。幸い、新型コロナウイルスによる影響は特に無く、工事は順調に進んでいます。



三、第4回定例会で行った一般質問

(1) 地域医療機関の統合再編について

石岡地域医療計画が発表され、民間病院を統合再編するための情報が十分に説明されていないことから質問します。

(1) 公立病院設置の必要性について伺う

保健福祉部長答弁要旨 医師や看護師不足により一部病床を余儀なくされている医師会病院ほか多くの病院が医師確保に苦慮している。市単独や医療機関単独での解決は困難であり、行政主導による医療資源の集約が必要。公立化することで国の病床特例が使い、病床不足の医療機関への再配分も可能となる。また、医師会病院の機能が生かされておらず、緊急診療や休日・夜間診療そして八郷地区患者の受け皿としての役割を引き継ぐ医療体制を図りたい。

(2) 指定管理について伺う

保健福祉部長答弁要旨 指定管理を予定している地域医療振興協会は「へき地を中心とした医療の確保と質の向上を目的とする」として設立された法人。自治医科大が医局となっている。病院事業会計は利用料金制とし、一部を市からの支出金(交付税措置額)これは指定管理料として、残りを医療収益で病院運営を行う方式を想定している。

再質問 指定管理者に求める負担金について伺う

保健福祉部長答弁要旨 指定管理者からは負担金として病院施設使用料をいただく。これは病院整備費の借り入れ返済にかかる交付税措置額を除く金額を施設使用料とすることを想定している。

再々質問 契約期間及び契約変更について伺う

保健福祉部長答弁要旨 指定管理をお願いする期間は30年を想定している。その際、当市に不利な契約変更を防止するために、詳細な内容を盛り込んだ協定を指定管理者と取り交わしていく。

(3) 運営経費相当分の交付税措置について伺う

保健福祉部長答弁要旨 現時点における令和5年度の交付税措置額想定では、病床割及び救急告示分として1億8千6百万円、病院事業債の返済分3千7百万円と見込んでいる。

再質問 公立病院の母体となる第一病院は過去3年間黒字。これに加え交付税措置額と同額を指定管理料で受け取れることから、協会は市に好条件を示していると考えます。こうした条件の数々を市長はどのような視点で見ているのかお尋ねしたい。

市長答弁要旨 病院の再編統合は、石岡市医師会病院と石岡地域の医療水準が維持できなくなるとの危機感から発生したもので、指定管理を利用する他市の公立病院の多くは赤字補填、医療機器の購入費支援が前提の環境で病院事業への協力を求めており、石岡市の環境とはスタート時点で大きく違う。協会の条件は破格であると認識している。

(4) 医師等スタッフの確保について伺う

保健福祉部長答弁要旨 医師配置は常勤医20名程度を想定。指定管理契約を行う前に医師・コメディカル確保等について詳細な内容を盛り込む協定を取り交わす考えでいる。医師会病院スタッフは協会で雇用する方向で調整している。

(5) 関係病院の支援については「支援をしない」と先輩議員質問に答弁されたので、質問しません。

(6) 組織の強化について伺う

保健福祉部長答弁要旨 地域医療対策室は平成31年4月に3名体制で新設。12月に2名、令和2年2月に1名の職員を増員し組織強化を図った。次年度についても職員の確保と強化を図りたい。

再質問 交渉能力に優れた企画・財政課の経験者を組織に加えるべきと考えますが見解を伺う

市長答弁要旨 事業推進に必要な人員を配置したい。配置する人材についても適材適所に努めたい。

(2) プログラミング教育の取り組みについて

プログラミング教育が小学校では20年度から実施されます。どのような形で教育現場に取り入れられるのか伺います。

(1) 教育内容について伺う

教育部長答弁要旨 新学習指導要領の完全実施により小学校でプログラミング教育が必修化となる。児童がプログラミングに取り組み、コンピュータを活用する楽しさ面白さ、達成感を味わえる取り組みが重要と考えている。

(2) ICT環境整備について

①授業で利用する機器の整備状況を伺う
教育部長答弁要旨 タブレット端末は生徒5人弱に1台の配備状況。各教室への大型モニター設置率は73%強となっている。

②無線ラン・ネットワーク環境の整備状況を伺う

教育部長答弁要旨 全教室に無線ランを整備済み、今後全ての普通教室に無線ラン環境を整備したい。

③どのような仕組みのソフトで学習するか伺う

教育部長答弁要旨 小学校5年生の算数、多角形の単元は、無料と使いやすい点から「スクラッチ」の活用を推奨している。必ずしも同じソフトではなく各校の実態に合わせた活用を進めている。

(3) 教職員の確保について伺う

教育部長答弁要旨 ICT研修会や情報教育推進委員会の中で、プログラミングの理論や実践研究を行い、人材育成に取り組んでいる。

再質問 教育現場の苦労を経験している教育長に環境整備と教職員確保の見解を伺う

教育長答弁要旨 生徒の指導方法や技術等で差が生じないよう、また教育に携わる教員が自信をもって指導に当たれるようにしたい。各校の推進役を担う人材の配置について意を用いてまいりたい。

四、石岡市長選挙は激戦の末に

(1) 誰が出馬するのか、出馬させるのか

今泉市長の辞職表明を受け、水面下では市長候補者の選定に向けた様々な動きがありました。

早々と出馬の決意を固め、3月26日に記者発表を行った元市職員の佐々木氏。次いで県議を辞職した谷島氏が4月3日に出馬表明。他に藤井氏が立候補表明を行い、石岡市長選挙は候補者3名によって4月19日告示、26日投票と決定しました。

(2) 激しさを増すアピール合戦

(1) 序盤は佐々木候補の独走

佐々木氏の出馬表明後すぐに、戸井田県議(自民党)が、自身の立候補は見送り、佐々木氏と政策合意したので支援するという文書を後援者に郵送。これにより事実上の選挙戦が火蓋を切ったと言えます。3月後半から佐々木候補を支援する複数の政治団体車両だけが市内各所をまわった事で、佐々木候補独走の見方が大勢を占めました。

(2) 市長選立候補予定者による公開討論会

市長として誰がふさわしいのか。石岡青年会議所主催によるネットを活用した市長選挙立候補者による討論会が4月16日夜に開催されました。

出席した3名の候補者はそれぞれの公約を説明した後、質問に回答。時間的な制約と緊張の中で候補者の生の声を聞く貴重な機会となりました。青年会議所の方々の開催に向けた努力に加え、討論会に臨んだ候補者の勇氣と協力も大いに評価されるべきものだと思います。

(3) 選挙公約を主張するビラのはずが

候補者経歴や公約を掲載したリーフレットが告示前に配布されました。一方、こんな人はダメ、これは大変といった否定型のビラも配布されましたが具体的な根拠も無く、情報操作的な記載も散見され、民度の低さを指摘する声もありました。

(3) 究極の決断 谷島候補を応援

3名の立候補者は勿論、応援する側も究極の選択・決断を迫られた市長選挙でした。

私の場合、近所の幼馴染みで市職員の先輩でもある佐々木候補。対して谷島候補とは縁戚。双方から応援依頼があり、悩んだ末に静観を選択しましたが、そうした判断を許さないのも政治の世界です。某陣営からの私への誹謗中傷が激しさを増し、迷った末に地域医療の考えが一致する谷島候補の応援に入る事を告示直前に決断しました。表向きは中立の市議、応援候補を途中で変更した市議等、応援する側も悩ましい選挙でした。

(4) 加熱した選挙戦

(1) かつて違う選挙戦がスタート

新型コロナウイルス感染防止への配慮をしながらの選挙戦は戸惑いの連続でした。人を集めるな。握手をするな。近くでの会話は厳禁等々。およそこれまでの選挙ではあり得ない対応です。また、コロナウイルス対策のため、選挙事務所の出入りでは、手指消毒を必ず行いました。

(2) 自民党県議多数が連日遊説に奔走

自民党県議20名余が谷島候補の選挙出発式に集合。選挙期間中は連日のように市内各所で遊説を繰り返しました。佐々木候補優勢との分析が続く中、遠方から足を運び遊説を行う県議に「何故、皆さん熱心なのですか」と尋ねると、異口同音に「谷島候補は人柄が素晴らしい上に県議の仲間。当然でしょう」答えは明快でした。

(3) 悪質なビラ投げ捨て行為の発生

投票日未明、谷島候補を非難する多量のビラが我が家に投げ捨てられました。防犯カメラ映像に残る悪質な行為をFacebookに投稿すると大きな反響に。同様の行為が市内各所で発生していた事が次々に報告され、非常に残念な思いがしました。

(5) 開票速報での一喜一憂

19時30分から開票作業が開始され、20時の第1回開票速報は、両者2千票。20時15分の第2回開票速報は両者9千票。発表のたびに、選挙事務所内は歓声のため息が。

そんな時、突然停電が発生し「発電機の燃料が切れました」と。暗闇の中、口にはしな

いが、不吉な予感が。明りがつくと、胸騒

ぎと票の行方でざわ

つく事務所内に「1万2千票で並び接戦のようだ」という情報が流れ、詰めかけていた県議、市議、応援団で溢れる事務所内は重苦しい空気で静まり返ることに。

胸が締め付けられるような数分間が過ぎ、その後、電話口で大きくうなづく選対本部長の姿に全員の視線が集中。『谷島候補1万7千票×佐々木候補1万2千5百票』と得票が書き出されると事務所内に「勝った」の叫び声が響きわたり、次いで万歳!の大合唱に。谷島市長誕生の瞬間でした。

(6) 市長選挙の総括

当初、新型コロナウイルスの影響と保守系候補者同士の争いから投票率は30%台との予測も。

しかし、何種類ものビラが連日配布され、さらには選挙カーの悲鳴にも似た叫びや立候補者討論会等有権者の関心を喚起したのか、期日前投票は21.37%と躍進。最終投票率は49.27%と伸びて、市民は谷島市長誕生を選択しました。



谷島市長誕生を喜ぶ県議団 (谷島市長は前列左2人目)

五. スリッパ暴力事件（その3）

(1) 徳増議員同席では開会せず

2月25日第1回定例会を迎えました。午前10時開会でしたが、前日の24日の全員協議会で徳増議員が反省する様子も無く発言した事もあり、各議員が反発し、本会議開会時刻に議場内に入らず、午前中は開会できませんでした。

昼食後、徳増議員が帰宅したとの連絡を受けて議会が開会し、市長から当初予算案を含む議案が提案され初日は閉会となりました。

(2) 一般質問は3日間を2日間で実施

3月2日の月曜日、一般質問初日を迎えました。徳増議員が議席に着席したため、議員の多くが議場に入らず開会出来ませんでした。予算審査のある議会を流会とすれば市民生活への影響は必至のため私の会派・石翔会4名は、翌3日の会議には出席することを確認しました。

3月3日、開会前に議長が徳増議員と協議するとしてまたしても時間に開会できませんでしたが、しかし、議員の半数以上がこれ以上の審議中断は市民に説明ができないとして、午後から一般質問を開始。3日間の予定を会議時間の延長を図り、2日間で終了。徳増議員の一般質問では、7名の議員が退席し抗議の意思を示しています。

(3) 全員協議会を秘密会にして謝罪

私は所用があり出席できませんでしたが、定例会閉会前日の3月17日、全員協議会を急遽開催。案件終了後、議長が秘密会を宣言し、徳増議員が暴力行為を認め謝罪したようです。秘密会とは文字通り内容を秘密とし、市民の傍聴は認めません。そして会議録も公開しません。

暴力は市民が許さないと主張し、徳増議員との同席を拒否する形で議会審議ができなかったわけですが、落としどころは秘密会での謝罪でした。

六. 新型コロナウイルス対策要望書を提出

4月15日、所属会派、石翔会（川井幸一、新田茜、大和田寛樹、櫻井茂）は「新型コロナウイルス感染症対策への要望書」を副市長に提出。

1. 新型コロナウイルス対応組織の強化
2. 新型コロナウイルス感染症相談窓口の開設
3. 市民への積極的な情報提供
4. 公共施設及び職員の感染予防対策の徹底
5. 医療機関・保育施設等に加え妊産婦への感染予防に関する消耗品等の支援
6. 商工農業者への経済支援の検討
7. ネットワークを活用した教育についての検討
8. 議会への詳細な情報提供 以上8項目です。

特に5番目の項目に関し、次亜塩素酸水精製器の購入を行い、食塩水を電気分解して安全性の高い次亜塩素酸水（弱酸性）を作り、市民に配布をすべきとお願いしました。しかし副市長は、国がその効果を認めていない（経産省が4月17日に効果を認定）として、見送りにしています。

石岡市は5月13日から次亜塩素酸ナトリウムの配布を開始しましたが、漂白剤の成分を含み殺菌力が強く、室内消毒用のため手指消毒には使えません。他の自治体では安全性の高い次亜塩素酸水の配布が多いことから、事務的発想ではなく、政治家が迅速かつ先を読む判断を行う必要性を痛感しました。

5月18日、要望事項への回答が届きました。現状は、現実的な対応で、職員も手一杯と受け止めました。

谷島カラーはこれから發揮されていくものと期待するところです。



七. 第1回臨時議会

(1) 議員報酬削減議案提出を求め臨時議会招集

5月19日、谷島市長を迎え初の議会である第1回臨時議会が市議会の要請で開催されました。

新型コロナウイルス対応として議員報酬を6月から3カ月間にわたり10%減額する議案を議員提案するためです。併せて市長・副市長・教育長も議員同様の月額給与10%減額議案を提案しました。新型コロナウイルス対策事業に関する補正予算も提案され、全会一致で可決となりました。

(2) 根本副市長の辞任

議案の採決終了後、根本副市長が「前市長の任命なので」と辞任を表明。既に当日の朝刊に副市長辞任が報じられており、順番が、という空気も。幹部職員は前日に報告を受け、驚いたようです。

八. 令和2年第2回定例会

令和2年第2回定例会は5月26日告示、6月2日開会です。谷島市長誕生を受けて初の一般質問が行われるため、市長公約やコロナ対策等について熱い議論が展開されるものと思います。日程の中で黄色の会議は、石岡市議会ホームページから議会の生中継を閲覧できます。

令和2年第2回定例会日程

月	日	曜日	会議内容
6月	2日	火	開会
	3日~7日		休会
6月	8日	月	一般質問
6月	9日	火	一般質問
6月	10日	水	一般質問
6月	11日	木	議案質疑
6月	12日	金	教育福祉環境委員会
	13日・14日		休会
6月	15日	月	総務委員会
6月	16日	火	経済建設消防委員会
6月	17日	水	議会運営委員会
6月	18日	木	採決・閉会

開始時間は午前10時。録画放映は、会議の1週間後を目安に公開しています。